三次市君田町茂田

奥山（おくやま）製鉄遺跡現地説明会資料

遺跡全体（東から）

平成２８年１１月１２日（土）

公益財団法人広島県教育事業団

三　次　市　教　育　委　員　会

はじめに

公益財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室では，幹線林道整備事業（比和新庄線）に伴う埋蔵文化財発掘調査により，奥山製鉄遺跡の発掘調査を実施しました。調査期間は，平成28年８月22日から平成28年11月11日までで，調査面積は151㎡です。

位置と立地

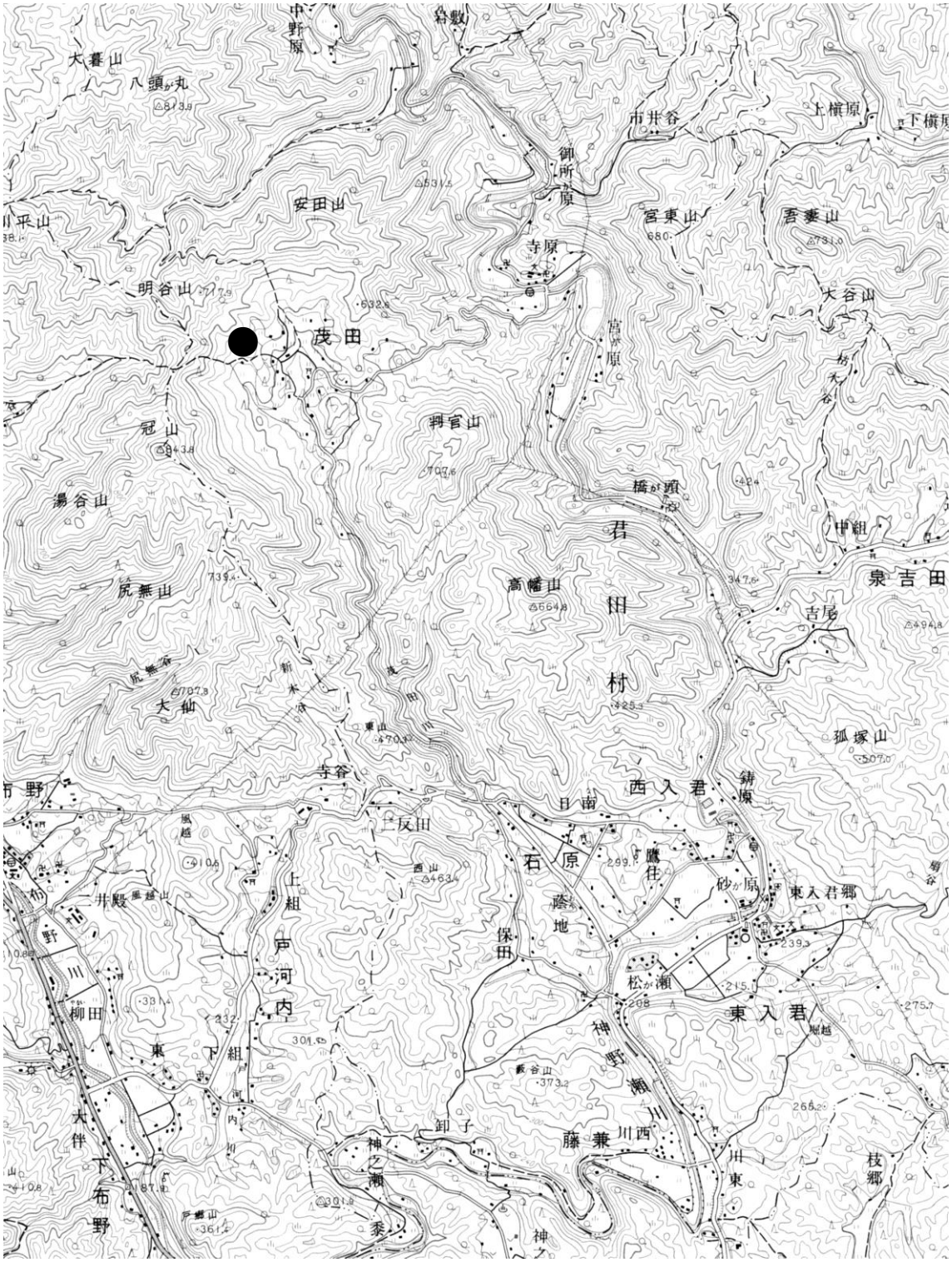
遺跡は，三次市君田町茂田に所在します。

位置は，中国山地の標高700～800m級の山々に囲まれたところで，ＪＲ三次駅から北に約12㎞の距離にあります。立地は，冠山（標高844m）東の狭小な盆地にある丘陵の南側斜面です。標高は551～555m，現況は山林でした。この地域では，古くから鉄穴流しが行われ，たたら製鉄が行われていたと考えられています。

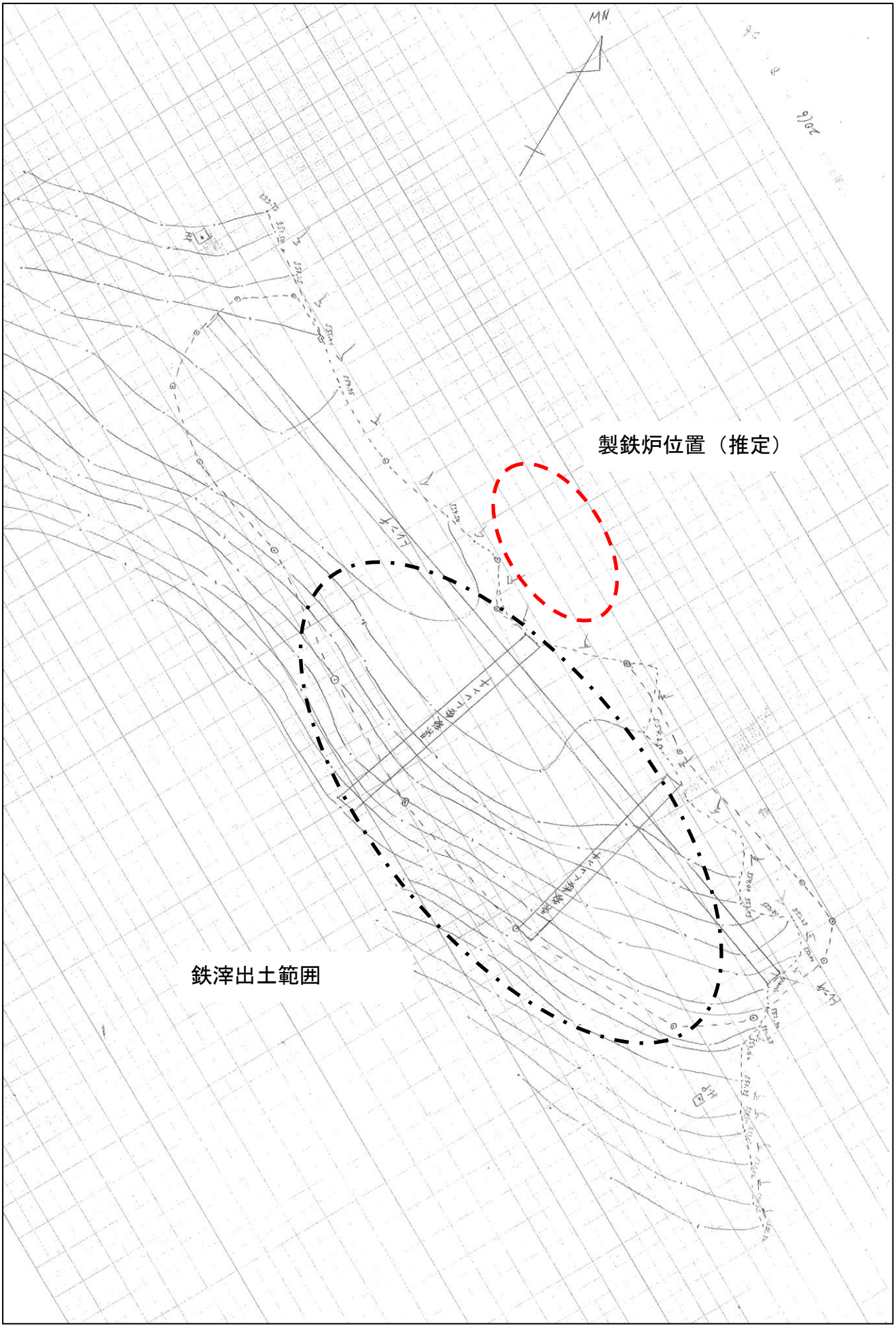
調査の概要

調査では，表土剥ぎを行って遺構検出を試みましたが，製鉄炉などの遺構は確認できませんでした。遺物は，中世と思われる土器片が数点出土したのみです。炉壁片と鉄滓の出土が膨大な量であることから，遺跡の周辺では複数回のたたら製鉄が行われたと考えられます。

鉄滓（てっさい）堆積状況（北から）



奥山製鉄遺跡位置図（１：50,000　国土地理院　上布野）



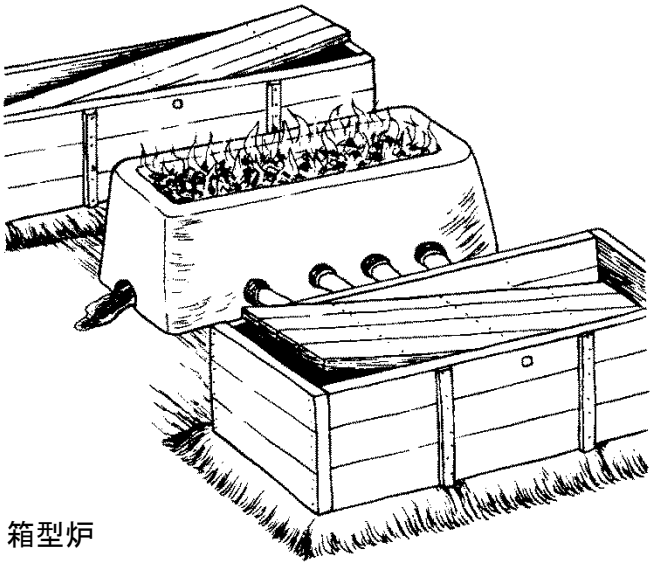
奥山製鉄遺跡調査区地形測量図（１：150）

たたら製鉄

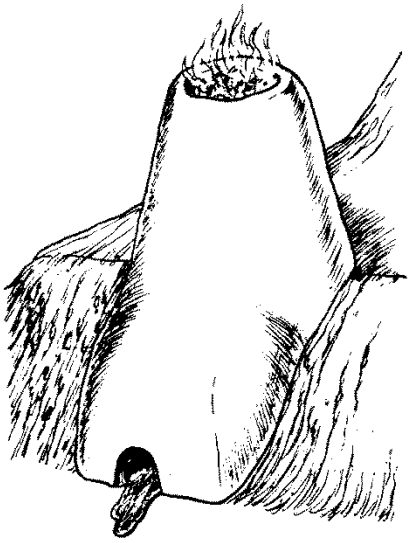
たたら製鉄は木炭を燃やして約１３００度の高温に熱した製鉄炉に山や川などで採取した砂鉄を入れて溶かして鉄を生産する方法です。近世の後半には国内総生産の約８割を中国山地で生産していました。

近世たたらの立地条件として「小鉄(こがね)七里に炭三里」といわれ，奥山製鉄遺跡の周辺でも砂鉄を採取するための鉄穴（かんな）流しの痕跡が残っています。

鉄穴流しの最後に
残った残丘
（茂田地区）

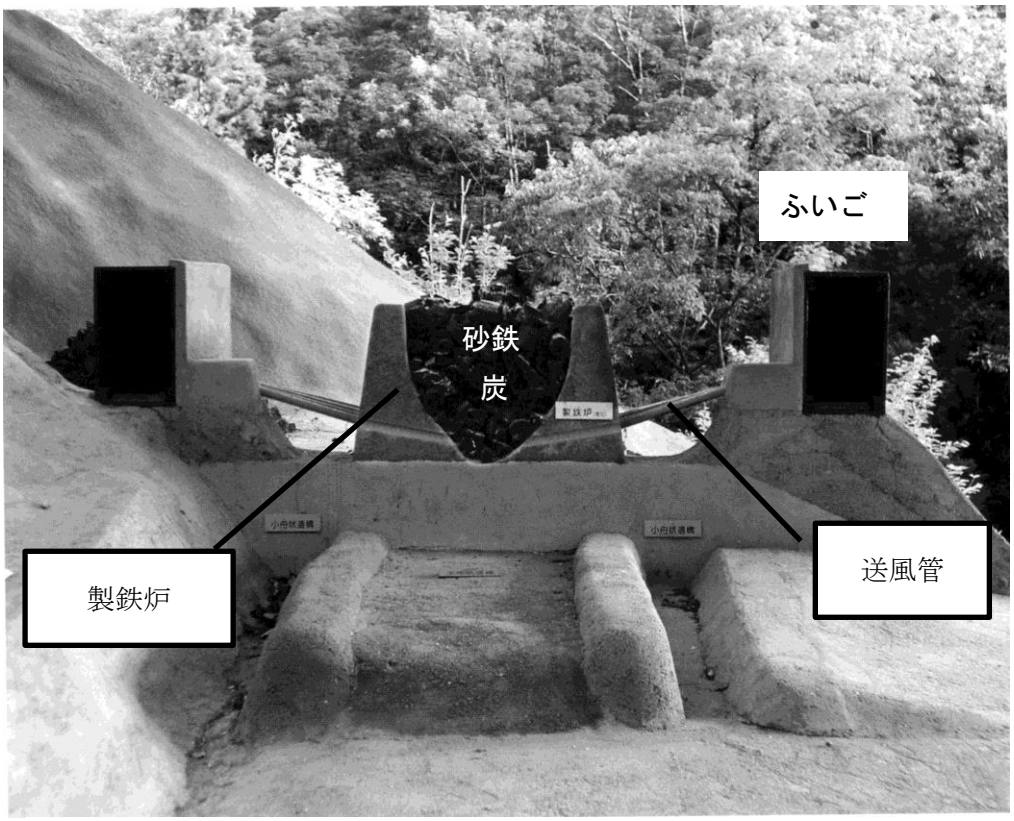


箱型炉



縦長炉

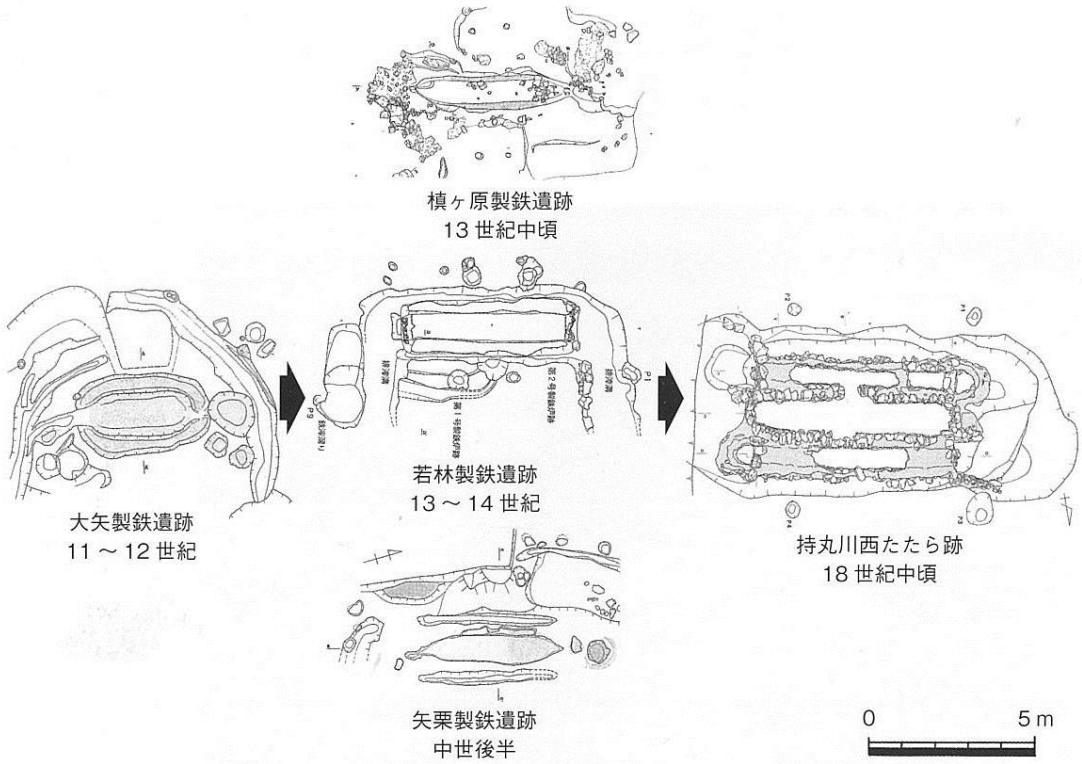
製鉄炉の違い　潮見　浩「技術の考古学」有斐閣選書　1988 年



復元された坤束製鉄遺跡（山県郡北広島町）

平成 18（2006）年特別企画展

「鑪（たたら）-中国山地の鉄と人 - 」展示図録　広島県立歴史民俗資料館から



中世から近世への炉の移り変わり

平成 18（2006）年特別企画展

「鑪（たたら）-中国山地の鉄と人 - 」展示図録　広島県立歴史民俗資料館から